

第16回全国食事サービス活動セミナー



「食」の支援をつなぐ力

…暮らしの場で・次世代へ・課題の共有…

一独居や高齢者のみ世帯の暮らしの問題。地域からの孤立。「施設から在宅へ」と制度が変化する中での受け皿の課題。少子高齢社会の進展の中で今、地域には様々な課題が生まれています。

身近な「食」の支援から、次世代へつながる支え合いのコミュニティを考えてみませんか。



■日時：2013年 **7月21日(日)** 10:00～16:00

■会場：

ジョンソン&ジョンソン本社カフェテリア 千代田区西神田3-5-2
(千代田ファーストビル西館3階 JR水道橋・地下鉄九段下)

■参加費：一般**2,500円**・大学生・院生**1,000円**

資料・お弁当・お茶付き (食事サービス活動団体のお弁当を用意します)

■プログラム

Session1 社会課題をつなぐ

「重層的課題を抱える高齢者の暮らし・食・住まい」(仮タイトル)

佐久間裕章さん (NPO 法人自立支援センターふるさとの会 理事長)

Session2 活動をつなぐ

「次世代リーダーに聞く『コミュニティ事業を仕事にすること』」

隅田耕史さん (NPO法人フェリスモンテ 事務局長：大阪市旭区)

菊池真吾さん (NPO 法人さんさんの会 理事長：岩手県大船渡市)

Session3 支援者・利用者につなぐ

「広報力を高めよう～支援者や潜在的利用者にアピールできていますか」

牧 志穂さん (株式会社博報堂 PR 戦略局 PR スーパーバイザー)

Session4 サービスで地域をつなぐ：GOOD PRACTICE から考える

「“超” 高齢社会の参加型福祉 ～地域支え合いの福祉拠点の取り組みを事例に」

朝川知昭さん (厚生労働省 老健局振興課 課長)

山崎美貴子さん (東京ボランティア・市民活動センター 所長)

事例 NPO 法人じゃんけんぽん (群馬県高崎市)

コミュニティかめば塾「まちの台所」(熊本県天草市)

主催 全国老人給食協会

後援 厚生労働省(申請中) 公益財団法人さわやか福祉財団 東京ボランティア・市民活動センター NPO 法人高齢社会をよくする女性の会

協賛 ジョンソン&ジョンソン社会貢献委員会 味の素株式会社 明治安田生命保険相互会社 日産労連 東京福祉バス株式会社

◆問い合わせ先：全国老人給食協会 TEL03-5426-2548 / FAX 03-5426-2548 info@mow.jp

◆申込方法：電話・FAX・HP(<http://www.mow.jp>) セミナー受付フォームより受付

Session1 社会課題をつなぐ 「重層的課題を抱える高齢者の暮らし・食・住まい」(仮タイトル)

高齢要介護、低所得、単身など重層的な生活課題を抱える人が増えています。そうした人々の現状とその地域生活を支える「居場所」づくり、「互助」へ向けた取り組みについてききます。

話す人 佐久間裕章さん(NPO法人自立支援センターふるさとの会 理事長)

NPO法人ふるさとの会(東京都台東区)
安定安心した生活をおくりながら、社会の中で役割や尊厳・居場所を回復するための支援として、自立支援ホームや日常生活支援事業を展開している。

Session2 活動をつなぐ 「次世代リーダーに聞く『コミュニティ事業を仕事にすること』」

新しい働き方としてNPOが目されるようになってきました。これまでの「食」の支援活動は女性を中心でしたが、20代30代の男性がリーダーとなる団体も生まれています。2つの団体の若いリーダーから、課題意識や新しいニーズへの気付きについてお話していただきます。

話す人 隅田耕史さん(NPO法人フェリスモンテ事務局長:大阪市旭区)

菊池真吾さん(NPO法人さんさんの会理事長:岩手県大船渡市)

NPO法人フェリスモンテ(大阪市旭区)
配食サービス、グループハウス、ヘルパー派遣・デイサービスなど多岐にわたる事業を地域密着で行いながら、地域交流支援(コミュニティカフェ)や子育て支援、就労困難者支援など新しい取り組みを立ち上げている。

NPO法人さんさんの会(岩手県大船渡市)
3.11の東日本大震災で被災した方への食事の提供をきっかけに大船渡市で活動開始。現在は低温真空調理法を採用した高齢者、高血圧、糖尿病患者、人工透析者向けの介護食を提供するほか、見守り活動、地域交流イベントなどを行っている

Session3 支援者・利用者につなぐ 「広報力を高めよう～支援者や潜在的利用者にアピールできていますか」(仮タイトル)

「人に伝える」ための考え方や、目標・課題の整理の仕方について、広告会社のノウハウをもとに教えていただきます。

話す人 牧志穂さん(博報堂PR戦略局)

Session4 サービスで地域をつなぐ:GOOD PRACTICEから考える

「超」高齢社会の参加型福祉～地域支え合いの福祉活動拠点の取り組みを事例に」

団塊世代が75歳以上になる2025年へ向けて厚生労働省から示された地域包括ケアシステムの将来像には、元気高齢者の社会参加の促進と生活支援(見守り・配食・外出支援・サロン)の充実が示されました。地域支え合いの活動拠点で行われている事例から、高齢者福祉施策の新しい動向をふまえて、「超」高齢社会の参加型福祉のあり方を考えます。

話す人 朝川知昭氏(厚生労働省老健局振興課課長)

山崎美貴子氏(東京ボランティア・市民活動センター所長・神奈川県立保健福祉大学名誉教授)

事例 NPO法人じゃんけんぽん(群馬県高崎市) コミュニティかめば塾「まちの台所」(熊本県天草市)

◆NPO法人じゃんけんぽん
「ハンディがあっても安心して住み続けることができるコミュニティの構築」と「子どもが豊かな心を持ちたくましく生きる為の体験教育」を基本理念に、介護保険事業のフォーマル事業と、居場所・配食等のインフォーマル事業、子供健全育成事業等に複合的に取り組んでいる。

◆コミュニティかめば塾「まちの台所」
子供から高齢者まで町のみんが気軽に立ち寄り、気軽に交流ができる「会食の場(サロン)」としてオープン、食事づくりが困難な方へ安否確認(声かけ)を兼ねた「配食サービス」を行っている。拠点は生涯現役をめざす生きがいづくりの地域活動の場ともなっている。

第16回全国食事サービス活動セミナー 参加申込書

宛先 FAX 03-5426-2548

ふりがな お名前:	団体名・大学名:		
<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 大学生/院生			
ご住所:〒			
電話・FAX・MAIL	電話	FAX	MAIL

※受付後 FAX で受付番号をお知らせします。当日は受付番号を控えてお越し下さい。